

研究テーマ 「学校運営の開発と発展を目指して」

～学校運営開発ビジョン展開シートの作成による学校評価の取組～

伯耆町教育委員会

1 はじめに

伯耆町教育委員会では、学校評価は、児童生徒がより効果的な教育活動を享受できるよう学校運営の開発と発展を目指すためと規定している。そして、学校が自らの教育活動その他学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、組織的・継続的に有効性の向上を図るために学校評価に取り組んでいる。

2 研究のねらい

とかく評価といえば「A, B, C・・・90%」などの数値を思い浮かべるが、評定すること自体が目的ではないので、伯耆町の学校自己評価表（学校運営開発ビジョン展開シート）や学校自己評価報告書には数値の評定欄を設けていない。

授業改善・教育改善を土台とした学校運営の自己開発・組織開発の効果的営みが継続されることを目的とし、取組の主体である「教職員個々」「教職員組織」が、現状を詳しく分析し、現在の取組を肯定的・発展的に問い直し、推進・改善・共有したいことを明らかにする一連の作業として、学校評価が実践できるようにするために、本研究を推進することとした。

3 研究内容

学校評価の土台となる「学校運営開発ビジョン展開シート」作成の取組を通して、研究のねらいが達成できるようにするため、スーパーバイザーを講師として招聘し研究を深めた。

(1) 第1回研修会「学校運営開発ビジョン展開シート作成の留意点」

| | |
|------|----------------------|
| □期 日 | 平成21年5月30日（土）午後1時～5時 |
| □参加者 | 校長・教頭・教務主任・研究主任等 32名 |
| □講 師 | 名城大学大学院 木岡一明教授 |
| □内 容 | 講義, 演習, 指導助言 |

(2) 第2回研修会「各学校の現状と課題に応じたビジョン展開シートの作成の視点」

| | |
|------|----------------------------|
| □期 日 | 平成21年7月15日（水）午前10時30分～午後5時 |
| □参加者 | 校長・教頭・教務主任・研究主任等 30名 |
| □講 師 | 名城大学大学院 木岡一明教授 |
| □内 容 | 指導助言（各校30分の個別指導） |

4 研究のまとめ

木岡先生からの指導の要点

- 「学校を動かす」という気概ではなく、「学校が動いていく」という意識で手法を考え、展開シートを作成していくことが肝要。
- 学校教育目標から重点事項をおろして、例えば「知」「徳」「体」とする必要はない。授業づくりの中には、「知」「徳」「体」は含まれるはずである。学校生活の殆どの時間は授業である。極端な話、1枚のシート、一つの重点事項でまとめることもできる。
- 期間重点事項を1年間のスパンで取り組もうとしているシートが多い。3ヶ月ぐらいのスパンで期間を捉えて評価し、取組を発展・修正・継続・中止すればよい。
- 中期重点事項を3年間と捉えるのなら、具体的にいうと小学3年生が6年になった時の姿という見方ができる。且つ、ホントに3年でできるのか？現状を詳しく分析すべきである。
- 重点事項を、この際に新しく設定した学校が多い。新しく設定するという事は、新しく取り組むこととなり、組織の疲労もたまると思われる。今、学校でしていることを集約し、問い直す（何を、なぜ、どのように、効果は？）ことで重点事項と取組が見えてくるはずである。
- ただ、留意したいのは、今、していることを集約し記入するだけだと、何も開発・発展はない。発展させたいこと、推進したいこと、または改善したいこと、共有したいことを重点にすべきである。
- 取組の主体は「教職員」または「教職員組織」であるべき。重点事項も教職員の行動目標である。子どもの学習目標ではなく、教師の教育目標である。
- 取組事項は、より具体的に、全員が共有できる言葉で記入するとよい。
- 評価の指標は一つではなく、複数を設定し多面的に見たほうがよい。（量・質・定性的等）
- 現在、記入してある言葉をさらに吟味する必要がある。例えば、「なぜ読書が必要？」「なぜ家庭学習が必要？」「なぜ授業研究会をするの？」と、問い直すことで具体的取組や評価の視点が見えてくる。
- 目指す姿、現状の見方・・・学年別、または教科別で現状は違い、取組の方法も違ってくる。そのあたりをシートにおろす工夫をしてはどうか？
- 現状は、できていること、さらにできそうなことを見て行く。肯定的に見ることで取組に無理がなくなる。
- 重点事項や取組には、上位目標・下位目標等があつてよい。
- ビジョン展開シートは、学校の取組の総括表である。このシートの下位に学級・学年・教科・分掌のシートがくる。その総括が「学校運営開発ビジョン展開シート」である。また、指導案としても使用できるはず。
- 「目指す姿・現状」と具体的な取組内容が対応していない。「こうだから、こう取り組み、こう評価する。」といった、シートの右への流れを明確にするとわかりやすい。
- 重点事項があまりに高すぎる目標になっている学校が多い。学校教育目標は「永遠・普遍」のものが多く、重点事項は違う。達成できるもの、評価できるものでなければならない。
- 重点事項が抽象的だと、取組も抽象的になり、評価もできない。具体的でないといつても見えない。
- 「具体的取組」に書いてある事項に、各教師の取組が多い・・・学校運営開発であるので、学年団として、分掌として、教科教員としてどう取り組むのかが見えない。個々の取組を協働化する取組が必要である。

- 家庭・地域との連携に、どう取り組むのかをもっと出してもいいのではないかな。
- 児童・生徒の姿を土台に作成したシートが多いが、「学校運営の開発」「組織的・機能的」と考えたとき、もっと違う視点で取り組むべき必要があるはずである。

(資料) 学校運営開発ビジョン展開シート

| | | | | | |
|--------|---------|-----------------------------------------|--------------------|-----------|------------|
| [様式1] | | 伯耆町立 学校 平成 年度 学校運営開発ビジョン展開シート (学校自己評価表) | | NO. _____ | |
| | | 期間重点事項Ⅰ【 _____ 】 | | | |
| 中期重点事項 | 期間重点事項① | 具体的な取組状況 (実施内容・方法) | 予想される変化・反応 (誰にどんな) | 評価基準・指標 | 取組完了後の次の一手 |
| 目指す姿 | 目指す姿 | | | | |
| 現状 | 要 状 | | | | |

◆ビジョン展開シート作成上の留意点 (木岡先生の資料から)

| | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 達成可能な目標が設定されているか。 |
| 2 | 教師の姿, 学校の姿として目標が設定されているか。 |
| 3 | 具体的取組は, 子どもの姿でなく, 教師の行動目標として記載してあるか。 |
| 4 | 目標は共有されているか。内発的目標になっているか。 |
| 5 | 目標は評価が可能か。 |
| 6 | 目標は連鎖しているか。達成のストーリーがあるか。 |
| 7 | 現状分析が肯定的な形になっているか。強み・持ち味を発揮しようとしているか。 |
| 8 | 形成的な評価となっているか? 評価の視点が複数になっているか。 |

5 研究の成果

2回の研修及び、それを基にした各学校での取組の中で、学校の現状をどのように分析し、何を目標として設定すべきなのか。そして、ビジョン展開シートは、学校の取組の総括表であり、学級・学年・教科・分掌のシートに連鎖していくことに気づくことができた。

各学校では、ビジョン展開シートの作成にあたりプロジェクトチームが組織され、全教職員がこの作業に関わり、多くの目で学校の現状を分析し、様々なアイデアを展開・集約し、ビジョン展開シートが作成された。

6 おわりに

現在、各学校では評価期間の中期を迎え (伯耆町の評価期間は、9月～8月)、自己評価の分析が行われている。次年度は、評価結果を次期への取組に、どのように生かすべきかに重点を置き、さらに研究を深めていきたい。